

箕輪町防災交流施設（仮） 基本計画

（※）設計の進捗により加筆等する場合があります

- 1 はじめに
- 2 箕輪町第5次振興計画（2016～2025）の概要について
- 3 箕輪町交流施設（仮）基本構想について
 - （1）背景と目的
 - （2）基本構想の概要
 - （3）配置計画
 - （4）これまでの調査・検討
 - （5）設計コンセプト
 - （6）施設規模と機能の詳細
- 4 今後の課題とスケジュール

令和4年2月
箕輪町役場 企画振興課

施設整備地域の特性

建設予定地の松島区通り町常会周辺は、交通量の多い国道153号東に位置しているため、車でのアクセスが良いことに加え、周辺住民の方は徒歩で来ることができる。また建設予定地は、役場、文化センター、中学校、体育館、JR伊那松島駅に近く、駐車場も一定数有している環境を活かし、世代間の交流や地域活動の場のみならず、誰もが個性を活かすために集い、多様な活動を行える環境にあり、多世代の居場所としても可能性を大いに有している。

建設予定敷地内には上伊那農業協同組合箕輪町支所が令和3年に建て替えられ、かねてより当町の中心的な地区に本施設が整備されることにより、町全体の活性化の機運の高まりにも期待するところである。

予定区である松島区は町内で一番人口が多く災害時の避難場所が不足していることもあり、この敷地内も災害時には有効活用できるものと思われる。

また、建設予定地北の町道352号線は、令和2年に整備し、北側（町道6号線）からの車でのアクセスが向上したことに加え、将来的には国道153号からの接続路である町道351号線改良を視野に入れており国道からの進入が容易になる可能性もあり、今後さらに活用される場所となりうる場所である。

箕輪町社会福祉総合センターの建替えに伴う 大規模災害時の防災施設としての立ち位置

箕輪町社会福祉総合センターは、昭和48年4月に開館し社会福祉協議会事務所として利用されるなど社会福祉の拠点として利用されてきたが、令和元年に耐震診断を実施し、梁接合部分で靱性も耐力も小さく耐震基準に満たないことが明らかになった。

耐震結果と社会環境の変化に伴い、現在では主に1階で会議室、シルバー人材センター事務所、障がい者の居場所「みのあ〜る」として利用されているが、全面解体を含め検討を行ってきた。

結果、建替えのタイミングで中心市街地内に活用可能な用地が確保できる見通しが立ち、社会福祉総合センターの機能も担保した防災交流施設建設を計画した。

現在の年間利用者数は約9千人で、会議室を定期的に使う団体の利用者が大部分を占めている。

また、建替えによる新たな避難施設として災害時の避難者の生活環境の確保、備蓄倉庫としての役割、また感染症対策を施した避難所の確保や、地域を支える消防団の平時における訓練・会議を行えること、自主防災組織等の訓練・研修等が行える施設としての機能を有することにより、地域から求められている防災施設として重要な施設となる。



箕輪町社会福祉総合センター

2 箕輪町第5次振興計画(2016~2025)の概要

第5次振興計画は、箕輪町として初めて人口減少を想定する中で作られた総合計画です。人口が減少する時代では、公共事業や社会保障を支える税収の減少や、高齢化による社会保障費の増大、担い手不足による地域コミュニティの弱体化など、私たちの暮らしを脅かす様々な課題が想定されますが、そのような中でも、先人が長い年月をかけ築き上げてきた暮らしやすさを、未来につなげていかなければなりません。

箕輪町の 将来像

みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町 — 人口減少時代への挑戦 “箕輪チャレンジ” —

《箕輪町第5次振興計画(2016~2025)の基本理念》

- ◎これまでの取組みを振り返りながら、町民が一丸となり、「みんなで創る」まちづくりを進めていきます。
- ◎先人が長年かけて築き上げてきた暮らしやすさが、「未来につながる」まちづくりを進めていきます。
- ◎人口減少社会となっても、誰もが住みたい町、住み続けたい町であり続けるため、「暮らしやすい箕輪町」を実現するまちづくりを進めていきます。

チャレンジ目標① 人口減少時代に即した暮らしへの転換

- ① 「出航！みのわ丸 2025」 町民参画促進チャレンジ
- ② 「集落再熱！」 集落パワーアップチャレンジ
- ③ 「ありがとう！健康」 健康寿命延伸チャレンジ
- ④ 「行政発新！」 新時代の行政運営チャレンジ
- ⑤ 「みのわマネーサイクル」 地域内資金循環チャレンジ
- ⑥ 「8・5・1のスクラム」 教育力向上チャレンジ
- ⑦ 「世界に誇るセーフコミュニティのまち」 安全・安心チャレンジ
- ⑧ 「復活！向こう三軒両隣」 地域の絆再生チャレンジ

チャレンジ目標② 将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持

- ⑨ 「幸せのまち“みのわ”」 ハッピーサポートチャレンジ
- ⑩ 「目指せ！子育てユートピア」 子育て安心チャレンジ
- ⑪ 「ほどほどの田舎暮らし」 移住・定住促進チャレンジ
- ⑫ 「地域の足を守れ！」 公共交通活性化チャレンジ
- ⑬ 「資源と人の循環づくり」 緑のエネルギー活用チャレンジ
- ⑭ 「我らは農業応援団！」 箕輪の農業応援チャレンジ
- ⑮ 「Made in Minowa 2025」 商工業活性化チャレンジ
- ⑯ 「町民みんながセールスマン」 箕輪町知名度向上チャレンジ
- ⑰ 「好きですみのわ！」 ふるさと愛着応援チャレンジ

○自治体DX、男女共同参画、ゼロカーボンに関する事業を追加予定

3 (1) 背景と目的

現在、多くの方が利用している「箕輪町社会福祉総合センター」について、老朽化・未耐震等により将来的な取壊しを計画しています。そこで福祉センター機能の一部を持ち新たに箕輪町防災交流施設(仮)を整備することにより、避難施設としての必要性和平時の防災拠点としての役割が主であるが、加えて多世代に渡る住民の居場所や、活動・自己表現の場にも供されることを期待しています。

この防災交流施設は、建設対象地が上伊那農業協同組合箕輪支所と同敷地内であること、景観への配慮、住民の意見・近隣住民の意見の反映など、配慮すべき事項が多く、また施設としては敷地・延床面積が狭いことなど加味すべき設計・施工上の制約も多くあります。

このため、専門知識や他都市等における豊富な経験を備えた民間事業者のアイデアや新しい技術を取り入れることにより、より優れた設計となることを期待し、公募型プロポーザル方式により、設計者を選定するものです。

3 (2) 基本構想の概要

箕輪町防災交流施設(仮)は、現在も多くの方が利用している箕輪町社会福祉総合センターの代替施設という側面と、当然避難施設としての役割、平時の際の防災拠点としての利用に加え多世代に渡る住民の居場所や、活動・自己表現の場としての側面を持つ施設を目指します。

平時は消防団活動の活動拠点としての利用や、地域防災訓練・防災検討会議等に活用され、災害時には地域の防災拠点となり、避難場所、物資配給の拠点になります。また、防災拠点でありながら、地域住民に防災拠点であることを認知されていく目的とともにコミュニティ施設の性格も加味した施設を目指しています。

普段から防災拠点としての認知を広げていくとともに地域住民から親しみがあり利用に慣れてもらうようにコミュニティ施設の側面としては、「誰もが気軽に利用できる居場所の確保」、「学生から高齢者までの多世代が過ごしやすい空間」、「様々な人が交流することができコミュニティが生まれていく施設」、「利用され続ける施設」など、多様性・多世代を受け入れられるような施設を目指します。

防災拠点であることに加え、コミュニティ活動のなかで生まれた輪がまちづくりへつながり、施設整備による周辺地域の活性化も視野に入れ、持続可能な地域の発展に寄与していくことを基本方針とします。

基本構想策定に向けた取組み

- ①庁内検討
- ②文化センター等利用者アンケート
- ③高校生アンケート
- ④地元区(松島区)意見交換会
- ⑤住民ワークショップ

これらの検討を踏まえ、基本構想では防災交流施設(仮)のコンセプトを定めました！

- ①防災拠点・避難所(地域防災計画指定避難所)
- ②快適な居場所
- ③多世代がシームレスに使える空間
- ④将来的に永く使われる施設
- ⑤にぎわいが創造されていく場

親しみ・利用される
防災施設としての手段

各取組みの意見要旨

①庁内検討

- ◆防災拠点設備は必ず有していること
- ◆防災拠点であるとともに地域のためになる施設
- ◆誰もが過ごしやすい空間になってほしい

②文化センター等利用者アンケートの実施結果

- ◆フリースペース、会議室はニーズが高い
- ◆年代、用途が限定される機能はニーズ低い

③高校生アンケートの実施結果

- ◆カフェのニーズがどの機能より高い
- ◆フリースペース・学習室のニーズが高い

④地元区(松島区)意見交換会の実施結果

- ◆まちなかの避難所として期待
- ◆困りごとの相談を受けてくれる人の常駐

⑤住民ワークショップの実施結果

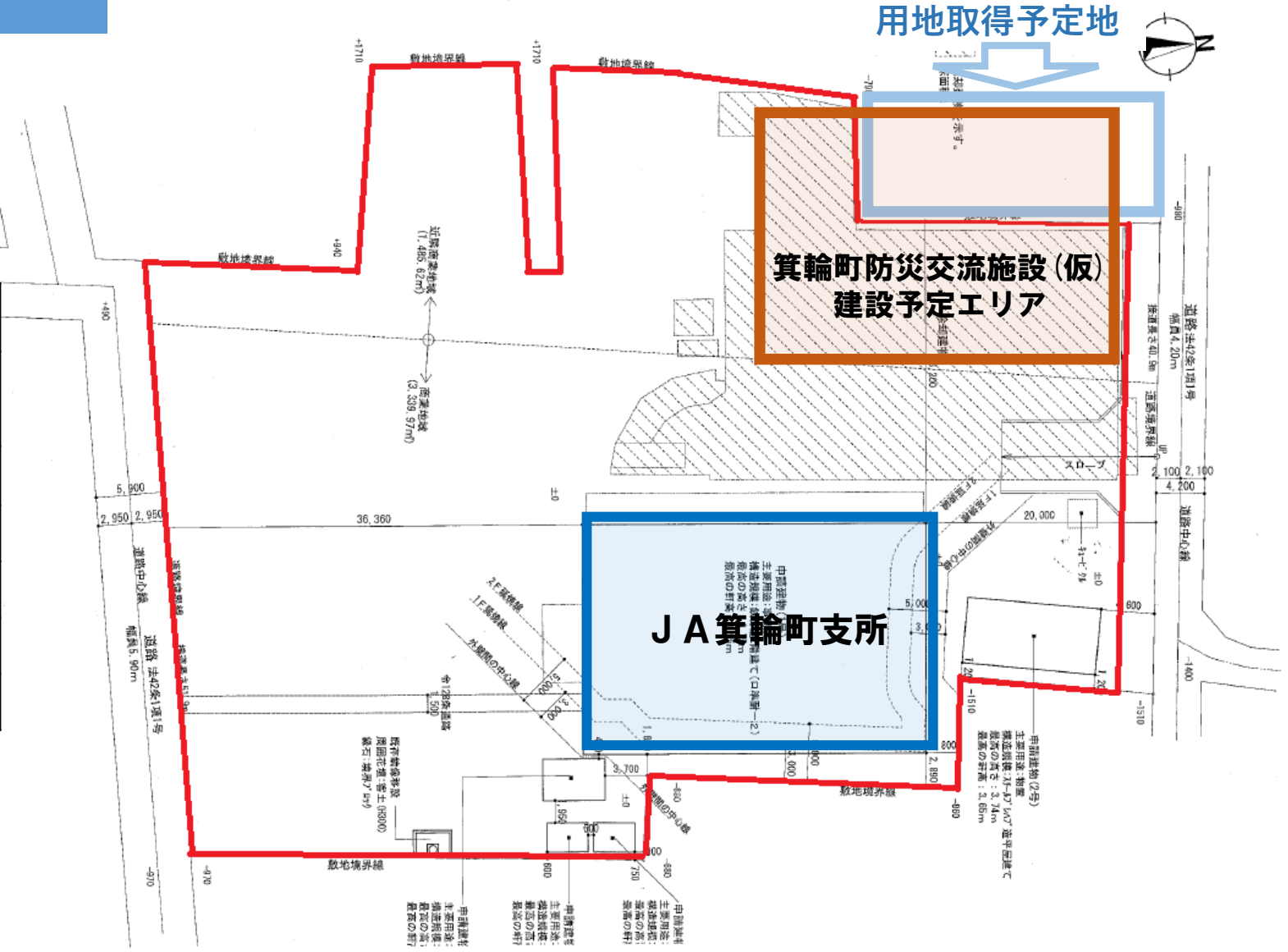
- ◆オープンな場にしてほしい
- ◆様々な年代、カテゴリーの方の居場所になれば

3 (3) 配置計画

建設予定地概要

計画地	上伊那郡箕輪町大字中箕輪9503番地 外(※)
敷地面積	4,300.76㎡(※)朱書き範囲内 前記敷地面積とは別に用地取得予定地の面積は278.97㎡(登記面積)である。
土地所有者	上伊那農業協同組合(※)
区域	都市計画区域内
用途地域	近隣商業地域及び商業地域
防火地域	指定なし
地目	宅地

※今後、上記記載の土地以外で右図の防災交流施設の予定地に係る部分は用地取得予定である



3 (4) これまでの調査・検討 その1



施設のあり方や機能性について方向性を出すため、職員による庁内検討やアンケートの実施、ワークショップなどを行い、基本計画に向けた情報集約を行いました。これらの意見を踏まえ、機能の絞りこみや施設のコンセプトを策定しました。

① 庁内検討 (若手職員のみ検討会・関係部署係長検討会等を実施)

【防災拠点施設として】

- 福祉センターが担っていた防災拠点施設としての側面を担保する必要がある、設備は冷暖房や換気、備蓄品防災倉庫、汎用性のあるパーティションの考え方など踏まえ、最新の社会状況に対応できる施設とされたい。
- 防災拠点であるとともに地域になじみ、住民のためになる施設に。

【箕輪町社会福祉総合センター移設について】

- 現在福祉センターを使っているボランティア系の人たちは安く使えるので他施設で収容できる。ボランティア意識を高めていくということであれば施設内に機能を持たせるのもいいかもしれない。シルバー人材センター事務局はいずれかの施設でも機能は担保できるだろう。
- 文化センターの部屋利用は飽和状態ではない。音楽施設はあっていいと思う。専門的な施設はあって良いと思う。

【子ども関係機能の分別について】

- 子育て支援センターは間借りしている状況。水曜はいきいき塾をしている。いきいき塾を防災交流施設に移せるのであれば子育て支援センターの機能だけを持った施設として運用できる。

【中高生関係機能について】

- 学習できる場所がないわけではない。ローソン周辺の塾の人たちが施設に集まってくるのか。その生徒たちがわざわざみんなで来て学習室に来るのかどうか。施設に学習室のようなスペースがいくつも入っているのは良案ではない。
- 高校生が勉強するスペースがない。中学生と高校生で考え方の棲み分けを行う必要がある。

【その他意見】

- 特徴のあるカフェがあれば良い。出張して町で時間をつぶす場所がない。Wi-Fi環境は必須
- げんきセンター(トレーニング施設)は町内どこにでもあれば良いが、現状でげんきセンターの利便性が上がっている。トレーニング施設の優先順位は低いと考える。
- 町の中心市街地に買い物ができる場所(スーパー)がない。生活店舗みたいな機能があれば良い。近隣のローソンで野菜など売ってくれれば良いと思うが。
- 働き人口世代は平日終業後、就寝するまでの時間に外で過ごせる場所があると良い。自分だけの時間を過ごせる場所が。民間の施設であると良い。
- 起業支援の小スペースのチャレンジショップ

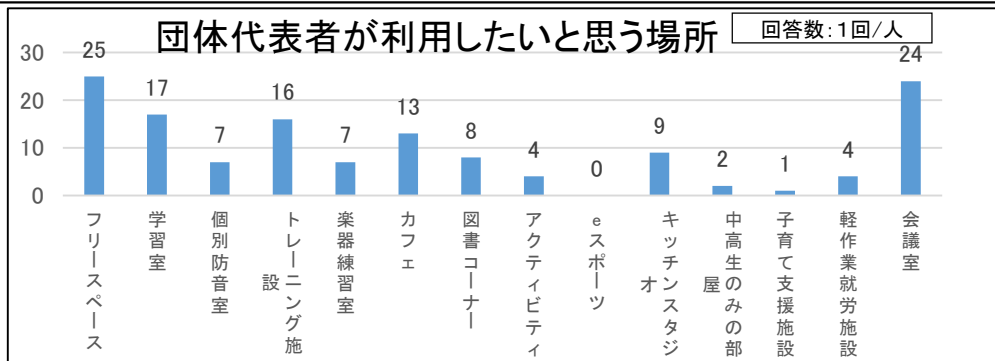
《施設機能等に対する若手職員・関係部署係長の意見比較》

機能	概要	ニーズ	課題・備考	優先順位に対する考え	
				若手職員	係長
フリースペース	●誰でも使える テーブル・スペース	●利用に自由度があり自分の時間で使える	●一定スペース必要 ●施設運用コスト捻出できるか	高い	高い
学習室	●学習専用のスペース	●中高生にニーズあるのでは	●学生が利用しない時間帯の活用	高い	低い 学習室特化はしなくて良い
個室防音室	●オンライン配信、講義等 ●eスポーツ	●就活生 ●大学生授業	●日中利用率どうか	高い	低い
トレーニング機能	●管理者のいるジム	●一定数ある	●町内施設に同機能ある ●民間競合	低い	低い
音楽施設 ライブハウス	●完全防音室 ●楽器設置	●どちらとも言えない	●伊那市に同様施設ある	低い	どちらでもない あれば良い
パソコン常設	●誰でも使えるパソコン	●PC環境が無い人	●中高生はPC貸与のため利用者少ないか	低い	低い
カフェ 民間・特化型	●地域性を絡めたカフェ	●施設利用者の居場所や休憩	●担い手、クオリティ	高い	高い
図書館	●特化型図書館	●特化型にすればニッチな層からのリピートも高い	●図書館移設は議論に相応な時間を要し、性急な議題	高い	高い
アクティビティ系 ・トランポリン施設 ・ストリートバスケット ・フットサルコート	●体を動かせる場所 ●初心者向け	●若者世代が遊ぶ場所が無い	●管理運営者が誰か ●利用されない時間帯の活用	若手からの提案	低い
自動運転の拠点 地域交通拠点	●地域交通の結節点・拠点	●交通弱者対策は課題である	●予定地には生活必需施設が無く交流施設から更に移動が必要 ●待合としての利用	若手からの提案	高い
屋上活用	●屋上に公園等の設置	●若者が遊ぶ場所、日中の居場所の提案	●屋上のため、経年劣化が早く、ランニングコストが増す	どちらでもない あれば良い	どちらでもない あれば良い

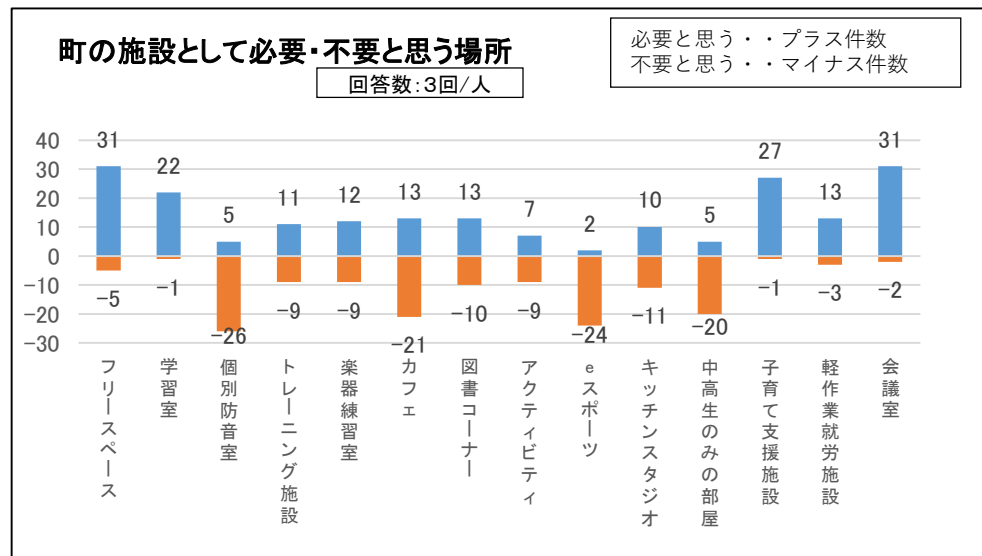
①文化センター等利用者アンケート

《対象者》文化センター等利用団体の代表者

《回答数》78団体 男性：34% 女性：66% (60代、70代で7割)



- フリースペースと会議室の件数が多い
- 現在利用している施設にプラスして場所があれば良いか

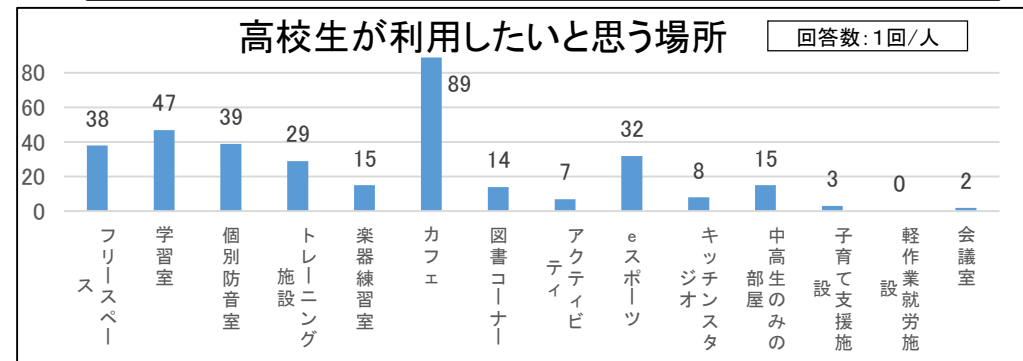


- 代表者が利用したい場所と比較すると子育て支援施設が求められている
- トレーニング施設のニーズは「町として」だとニーズが下がる

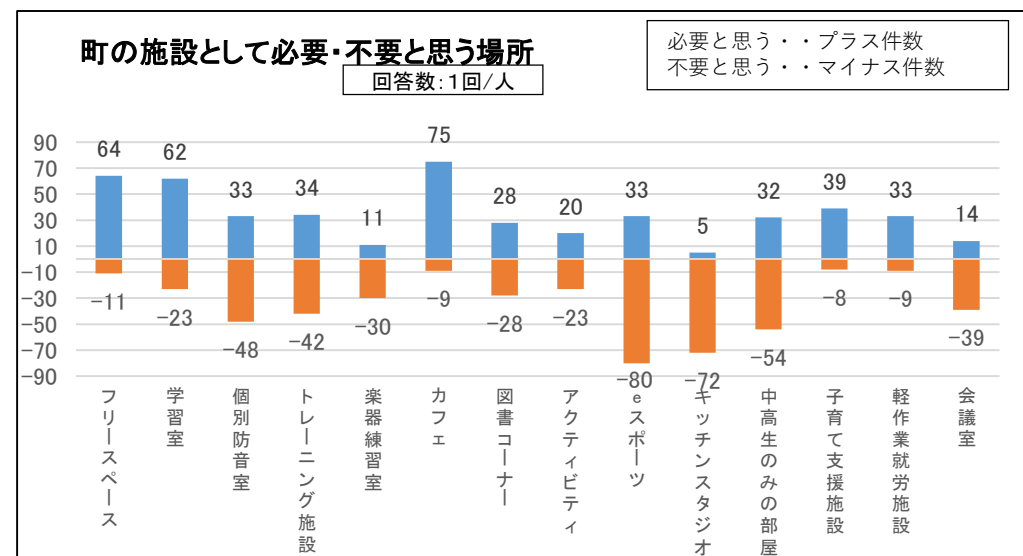
②高校生アンケートの結果

《対象者》高校生(伊那北、伊那西、箕輪進修)

《回答数》172人 男性：44% 女性：56%



- カフェの件数が圧倒的に多い
- 学生なので、学習ができるようなスペースが望まれている



- カフェ、フリースペース、学習室のニーズが高い
- ニーズが高いと想定していたeスポーツは不要とみる人が多い

文化センター等利用者・高校生アンケートを踏まえた施設イメージ **(検討過程の案)**

アンケートは高校生と文化センター等利用代表者に対して行い、回答群は高校生の10代の若年層と、文化センター代表者の多い60・70代で分けることができる。施設に関するアンケート調査を踏まえ多世代に渡る施設としたいため、いずれのニーズにも対応できる施設としたい。

スペース(ハード)として

- フリースペース(★)
 - 会議室(★) ■ 学習室(★)
 - 子育て世帯受け入れ空間
 - カフェ
 - イベント用フリーラウンジ
- 「★」アンケートによりニーズ高い
→ 必須スペース

ハードとソフトを合
わせた場づくり



交流や新たなつなが
りを生む仕組み

機能・仕組み(ソフト)として

- 集いの場・居場所
 - 文化活動、展示
 - 民間の集客力の活用
 - ポップアップショップ(雑貨、コーヒー、軽食、菓子、服、アウトドア、子育てグッズ)
 - 学習
 - 子育て支援機能
 - 雑誌・専門図書
- ◇ 防災機能 ◇
避難所、備蓄倉庫、炊出し、感染症対策室、非常時Wi-Fi、非常用蓄電池、太陽光、トイレ、授乳室 etc.

- ・ 限定的な利用目的ではなく、汎用性の高い部屋・機能が求められている。
- ・ 特色あるスペースを創るのであれば尖る部分は必要である。
- ・ 会議室はニーズが高く、利用率も高くなりそう。フリースペースは空間デザインや利便性により利用率に影響が出てくる。
- ・ いずれにせよ空間デザイン、建築物としての機能は重要
- ・ 集客力が高い企業がテナントで入れば、その企業のファンは必然的に定期的に足を運ぶ。さらにその企業・従業員がイベントやコンテンツの提供を行うことにより、新たな価値・文化の醸成が期待される。←カフェでの参入か
- ・ その他民間テナントの有無

- ・ 子育て支援施設は若年層も高齢層も“町として”必要な機能として求められている。既存の子育て支援センターと並行し、単純なスペースの提供と、ソフト事業で子育て支援策が実施できればと考える。
→ハード面で専用のスペースを配置するか要検討。ふらっと親子が来て少し自由に遊べる居場所と児童用図書を置くなどの工夫を。
- ・ ポップアップショップは、活躍の場を広げようとする若者を支援するために一定のスペースを提供する。様々な事業者が活用できるスペースとしたい。運営は調整を行うコーディネータがいてほしい想定。スケジュールやアポ取り、折衝を行ってもらおう。ただ、若者が当該施設の空間を気に入ることや、集客など課題は種々あり。
- ・ 高齢者の就労機能については要検討

施設イメージコンセプト(案)

施設の外觀、内装のイメージや、施設機能に傾向を与える

案1 シームレス

多世代が次々に訪れ、年代ごとの利用・滞在時間が変わってくる。明確な区切りがなく多世代が交わるような施設としたい
そのすべての人にとってそれぞれの居場所、過ごし方に境目がなく、多様性に富む場の提供
★フリースペース、各世代に対応した部屋の構築、汎用性の高いスペースを重視

案2 快適な居場所

誰もが快適に過ごせる居場所として、丁寧な気遣いを感じられる施設。
安全・安心に配慮したスペースの提供
★子育て支援、デジタル関係(Wi-Fi、モニターなど)、自販機の充実、「住」環境を重視

案3 にぎわいの創造

訪れた人々で常ににぎわい、新たなコミュニティが誘発される仕組み
屋外に施設内のにぎわい、活動が見えるような演出をすることによる視覚的効果、機運醸成を図る
経済活動が可能なスペース、連続的なイベントの開催によるにぎわいの創出を行う
★民間テナント誘致、ソフト面の活動・イベントのコーディネート重視

3 (4) これまでの調査・検討 その3

住民と対話をすることにより、地域の困りごとや住民ニーズの把握、未来に向けた希望を具体化するために次の意見交換会・ワークショップを行った。意見交換会等の実施により、新たな施設に求められる施設の在り方や機能の方向性を把握した。

③地元区(松島区)意見交換会

参加者：松島区長、区役員、町議会議員、一般参加者

施設について

- ・高齢者が増え、避難所として期待している。
- ・避難所であるとともに日常使いができるような施設に。
- ・高齢者の特に男性が外に出たがらないので、男性も交流できる場所に。
- ・屋上を作り、親子連れが外で遊べるように
- ・学生の居場所、勉強できる場
- ・打合せができるエントランス、フリースペースがほしい



④住民ワークショップ

参加者：一般参加者、地域おこし協力隊、松島区役員

- ・Wi-Fiが使える
- ・会議室を設けるならカッコいい仕掛けがあると良い
- ・壁にプロジェクターダイレクト投影
- ・施設全体に暖かい印象を。木のぬくもり
- ・オープンな場に。仕切りが少ないことや、ガラス張りにする



利用アイデア

- ・話しかけやすい人が常駐してほしい。手続きや困りごとなど簡単な質問・疑問に答えてくれる人。
- ・利用目的を創るということで高齢者が何人かで通う目的があると良い
- ・趣味を持っている人はたくさんいる。展示の場があると良い。照明などに配慮してほしい。
- ・有償ボランティアの拠点になれば。

- ・施設の使いやすさは大事。予約が必要なら簡易にしてほしい
- ・ただそこにいることのできる場、居場所
- ・高齢者の集まれる場
- ・町のいろんなことが知れる場所、生活のちょっとした困りごとが解決できる場所(コミュニティマネージャーのような人がいてほしい)
- ・子育て中のお母さんが集まれる場所、楽しめるように
- ・“なにかやっている”の仕掛けづくり

【求められている主な傾向】

- ① 高齢者に配慮した防災拠点
- ③ オープン、開放的である空間

- ② 防災拠点であるとともに住民が交流できる場所・空間であること
- ④ 利用が特に見込まれる高齢者、学生に配慮した佇まい



3 (5) 設計コンセプト

設計コンセプト ※詳細は次ページ

① 防災拠点・避難所 (地域防災計画指定避難所)

② 快適な居場所

③ 多世代がシームレスに使える空間

④ 将来的に使われる施設

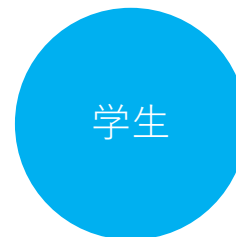
⑤ にぎわいが創造されていく場

親しみ・利用される
防災施設としての手段

平時は消防団拠点施設として消防団の訓練・会議を実施することは元より、自主防災組織等の研修等を行っていくことで、緊急時のみに使う際の使いづらさの緩和と施設認知の醸成を図る。

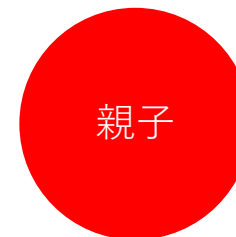
また、地域住民も前記利用時以外に施設を利用することで災害時における避難所としての認知と、防災意識の向上、安心感を持てる。

防災施設としての利用と並行して コミュニティ施設としてのカテゴリ別の居場所イメージ



学生

- 学習の場
- 放課後の居場所
- 学習室



親子

- 交流の場
- 多世代との交流
- フリースペース



若者女性

- 仕事の場
- アフター利用
- ワークスペース

障がい者



シニア

- 団らんの場所
- ライトワーク
- カルチャースクール

障がい者



ワーカー働き世代

- 夜の居場所
- 自己表現
- カルチャースクール



事業者

- つながる場所
- 新たな仕事の発掘
- ワークスペース

基本構想より

「みんなで創る」
「未来につながる」
「暮らしやすい箕輪町」

地方創生

「活力ある社会の維持」
「多様な人材の活躍の推進」
「新たな時代の流れを力にする」

上記コンセプトを基にして、防災拠点施設としての利用とともに、すべての人々が生涯を通して、「いつでもどこでも学びたいときに学ぶこと」、「仕事や地域活動と子育てを両立できること」、「暮らしの中に『ゆとり』や『楽しみ』を持てること」など、様々な場面に応じた取組みを進めていくとともに、お互いの心が通い、支え合う地域社会をつくる必要があります。

また、身近な芸術・文化活動及び生涯学習活動を持って、地域に貢献する活動を活発化し、多くの人々が参加して、お互いの生活に潤いをもたらす地域づくりも必要です。このため、身近な地域の中で、子どもから高齢者までが一緒に過ごし、支え合い高め合うことのできる活気ある地域社会の実現に向けた防災拠点施設整備を図ります。

地域の特性と調和を図り、平時の防災施設としての利用と多様な社会ニーズに寄り添った施設を目指します。

3 (5) 設計コンセプトの詳細

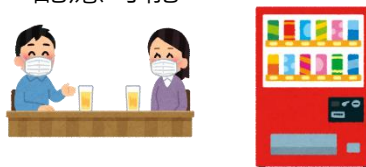
災害時に対応できる施設『防災拠点・避難所』

- ・災害時を想定した機能性、収納、動線の確保
- ・防災訓練が実施できるなどの機能転換の汎用性
- ・施設全体の前提となるコンセプトである



多世代に居心地が『快適な居場所』

- ・館内全域が開放的であると同時に利用者のプライバシーが相互に配慮可能な空間。災害時においてもプライバシー配慮可能
- ・滞在しやすい空間設計
- ・お茶が飲める仕組み、設備を備える
- ・にぎわいが創造され、それを許容できる空間



多世代に配慮した施設『多世代がシームレスに使える空間』

- ・内部の開放感と、外から中の活動の様子が見えやすい
- ・ユニバーサルデザインを取り入れる。災害時の有効性配慮
- ・管理者が利用者の活動を察知できる配置



将来ニーズに対応でき環境配慮した『将来的に使われる施設』

- ・利用する人のニーズに応えられる設備
- ・設備配管等、容易に維持管理できる仕組み
- ・周辺既存建物・状況に配慮した施設
- ・自然を感じられる明るい内外装施設
- ・ゼロカーボンに取り組む町の施設としての設備を備える



将来に向け持続的に使われる施設『にぎわいが創造されていく場』

- ・個人でも気軽に立ち寄り、会話もできる空間
- ・打合せができたたり、何かの待ち時間に少し時間を過ごせる場所
- ・創作的活動に対応した部屋の構成

次の事業は、防災拠点施設として利用される場合以外で、実施をするか検討中の事業です。施設運営にも大きく関わる部分なので、詳細設計時には方向性を確定し、調整を図ります。

①いきいき塾事業

松島区にある「箕輪町子育て支援センターいろはぽけっと」で週に1回程度開催されている高齢者の介護予防活動のこと。現在は子育て支援活動と活動日を分けることで運用しているが、防災交流施設整備に伴い、会議室またはその他のスペースにてその活動を実施できること。

②シルバー人材センター事務所

現在の箕輪町社会福祉総合センターに15㎡程度で設けているシルバー人材センター事務所

③障がい者の居場所

現在の箕輪町社会福祉総合センターで「みのあ〜る」として障がいのある方もない方も気軽に集うことのできる場、相談員も常駐している

3 (6) 施設規模と機能の詳細

施設規模について

施設規模については、基本的に次の規模をベースに具体的に検討していきますが、設計が具体化する中で必要と思われるものについては柔軟に対応していきます。
施設の前提として、全体が「防災・減災」の機能・汎用性を有していること。

機能	概要・想定面積
フリースペース	他のスペースとの連携、共用に配慮 多様で居心地の良い空間 自習や打合せも可能な空間とすること グループでも1人でも使いやすい仕組み ～400㎡
カフェ/チャレンジショップ	利用者が気軽に立ち寄れる喫茶スペース
防災倉庫	原則1階に設置。災害物資を備蓄するため、災害を想定し外部搬出入扉設置と間口の広い施設内扉設置 ～60㎡程度
事務室	受付や庶務スペース15㎡程度、給湯室、更衣室
会議室	少なくとも2部屋で、同一の形状でなくても良い。 ～120㎡程度
トイレ	各フロアにトイレを設置し、使いやすさに配慮（多目的トイレ・授乳スペース）
AVコーナー	PCなどのない方が自由に情報収集できるコーナー
飲食スペース	飲食も可能なスペース いす・テーブル配置
図書コーナー	新聞、雑誌で地域の情報を収集できること
ゴミ箱	施設内の軽微なゴミは捨てられるようにする。 分別がされやすいアイデアを。
相談室	6人程度が入れる個室。中の気配は分かるようにすること
合計	1,200㎡程度

施設全体について

① 全般に共通する配慮事項

- ・ 町民の参加と連携で成長し続ける施設とすること。
- ・ 防災交流施設のみならず周辺の中心市街地を含め人の流れを生み出し、にぎわいを創出することにより地域活性化に寄与することをデザインや仕組みに組み入れること。
- ・ 誰もがいつでも使いやすい施設とすること。
- ・ 親子のふれあいを促進できる施設とすること。
- ・ 箕輪町の情報を発信する施設とすること。
- ・ にぎわい創出の仕組みづくり。
- ・ 太陽光発電設備を設けること。また、環境に配慮した機能を積極的に取り入れること。
- ・ IoT、ICT、DXの観点から最新のものを導入すること。

② 運営について

- ・ 運営については、今後指定管理制度を活用する予定

③ 外観について

- ・ 近隣建物との調和を図りつつ、先鋭的かつ洗練されたデザインで、外観から木のぬくもりが感じられること。
- ・ 施設内が見えるような工夫を。開放感・オープンなイメージを持たれるような。

④ イベント等ができる仕組みについて

- ・ フリースペース等を活用し展示やポップアップショップその他イベントを催し、常に活気のある空間を兼ねる。

⑤ その他

- ・ 将来的なニーズに対応できるよう軽微な変更を許容できる建付けに配慮すること。
- ・ 汎用性の高さへの配慮。

左記の施設規模の数字については、関係者との協議の上で、具体的に確定することとします。

4 今後の課題とスケジュール

今後の課題

課題	解決のための取組み
①国交付金等を活用する予定であり、条件適合する必要がある	国の緊急防災減災事業債を活用予定であり、町の防災計画に避難施設としたい 役場防災部局との打合せが必要
②ボーリング調査の結果に対する対応	結果に応じて柔軟に対応する。実施設計は調査結果を反映したものにする
③J A上伊那との調整	同一敷地内での施設としてイベントや災害時に相互利用ができるように連携協定等進めたい
④上記①～③の調査及び検討を踏まえた上で、事業の実施について総合的な課題	随時解決を図るが、実施設計に反映するためプロポーザル選定事業者と打合せ・調整を密に行っていく

今後のスケジュール

この基本計画を踏まえて、箕輪町交流施設(仮)が地域創成の場として発展することはもとより、防災拠点であることを踏まえ、住民を巻き込み、取り組んでいくことが重要です。スケジュールについては、次のように想定しています。

内容	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ボーリング調査		→			
公募型プロポーザル実施		→			
基本設計			→		
実施設計			→		
建設工事				→	
運営方法調整			→	→	
開館					○

上記のスケジュールは、円滑に調査や調整が進んだときのものです。設計段階の打合せやソフト事業に対する検討・調整に時間を要する可能性もあるため、それぞれの工程がずれることも想定されます。それらの可能性も含めて、本整備事業に相応しい要件を整理し、望ましい事業の在り方を検討していきます。

箕輪町防災交流施設(仮)基本計画に関するお問合せ先

箕輪町役場 企画振興課 まちづくり政策係
〒399-4695 長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10298番地
電話：0265-79-3152
FAX：0265-79-0230
メール：kizai@town.minowa.lg.jp